

NPO法人園芸療法研究会西日本

NEWS LETTER 'HANATOWA'

はなとわ

2021年1月1日発行
H.T.W. NEWS 通巻第107号
〒664-0831 伊丹市北伊丹3-64-2
TEL&FAX 072-783-8739
URL <http://www.ht-w.org/>
E-mail : info@ht-w.org



2021

目次	
P-1 新年あけましておめでとうございます	P-11 秋風に白い花揺れる猪名の里から～農福連携に挑戦する農園～ 第9回
P-2,3 遊山の会 2020「滋賀ツアー」報告	P-12 植物の力を借りて私たちにできることⅠ「園芸療法との出会い」
P-4 『オンライン交流会』報告2	P-13 植物の力を借りて私たちにできることⅡ「子どもたちに光を与える」
P-5 日本園芸療法学会 2021年大会プレ大会を終えて	P-14 ねっとわーく情報 入院生活4ヶ月 自分で園芸療法
P-6,7 楽しい園芸療法の実践を目指して 第29回	P-15 ねっとわーく情報 “日本園芸療法学会 2021年大会プレ大会”に参加して
P-8,9 インドネシア・ジャワ島の今昔物語 第23回	P-16 予定表/事務局日より
P-10 園芸療法のマネージメント 第41回	

新年あけましておめでとうございます

宮上 佳江 (NPO 法人園芸療法研究会西日本理事長)

2021

新春を迎え

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

本年もどうぞよろしくお願いたします

グロッセ世津子さんが、2020年12月2日に永眠されました。

突然の訃報にとまどい、日に日に喪失感が深く大きくなっています。世津子さんの著書『園芸療法のこころ』(2003)を改めて読み返しました。17年前も今も、すくとんと腑に落ちる問いかけのことばが鏝められています。例えば、同書148頁「さあ、種を育ててみましょうか」からあとに記されたセラピストの役割は、種をクライアントに見たて、その種が育つプロセスにセラピストが園芸を通して「機会」や「選択肢」の提供を行うとしています。もっと平たく言えば、種をまいても温度や水、光や栄養が充分でなければ花は咲くことはできず、実りも無いのです。種にはすばらしい可能性が秘められており、「環境設定」によりたくさん花を咲かせ、実りがあるかもしれないのです。また、ラテン語の「共有する」は、「communicare」で、英語ではコミュニケーション「communication」。時間の共有、場の共有、言葉のキャッチボールなどなど世津子さんが目指した園芸療法のこころが行間から見えてくるのです。

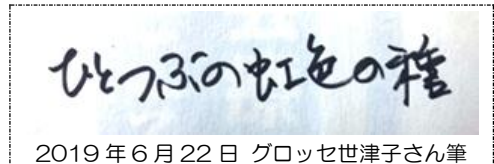
2019年6月22日に第7回総会講演会で配布された資料を同封します。いまいちど、いのちの花の輝きにふれていただければ幸いです。

例年は次年度総会のご案内など、4月以降の活動を予告する紙面ですが、今年は先の見通しが立ちません。大阪市の長居植物園での活動も、これから協議検討する段階です。当会事業に関するご意見等ございましたら、オンラインミーティングを毎月開催しておりますので、ぜひご参加ください。詳細は事務局へ事前にお問い合わせをお願いします。

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により、当会事業も縮小や中止が続きました。明るい話題が少なかったなかで、オンラインによるミーティングが始まり、日本園芸療法学会プレ大会などを通じて新たな出会いの場ができたことは園芸療法関係者には特筆すべき進展でした。プレ大会関係者の尽力の賜物です。

また、2020年4月からNHK 趣味の園芸テキストの連載『心と体にやさしい園芸療法』(岩崎寛さん)や、タキイ種苗の定期刊行物「園芸新知識はなとやさい」2021年1月号の『五感に働きかける園芸療法』(横田優子さん)など、いまこの時代に必要とされる園芸療法が新たな形となって見え始めています。韓国メディアによる日本の園芸療法やコミュニティガーデンの取材も一連のものでしょうか。

2021年は、私たちに必要な植物とのふれあいや、人と人のつながりを振り返りつつ、一步一步着実に前進する年にしていきたいと思います。



2019年6月22日 グロッセ世津子さん筆